

## 6 抗体でみる鑑別診断

### Differential diagnosis with autoantibody

松下貴史

MATSUSHITA Takashi

金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚分子病態学講師

#### Summary

膠原病は自己免疫現象を背景に、多臓器障害を特徴とする原因不明の慢性難治性疾患である。膠原病では患者血中に自己抗体が高率に検出され、特定の疾患や臨床症状と密接に相関する。よって自己抗体の同定は、膠原病の鑑別診断ならびに病型分類、経過の予測、治療方針の決定にきわめて有用である。また、一部の自己抗体(抗 dsDNA 抗体、抗 MDA5 抗体)は疾患活動性を反映するため、治療効果の判定に有用である。近年、多くの自己抗体が ELISA 法により簡便に測定できるようになり、膠原病における自己抗体の同定は、日常診療においてさらに重要なものとなってきている。

#### 筋炎特異自己抗体

2014年1月から抗ARS抗体、また2016年10月から抗MDA5抗体、抗TIF1- $\gamma$ 抗体、抗Mi-2抗体が保険診療でELISA法により測定可能となった。

#### 抗MDA5抗体

抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎は、高率に急速進行性間質性肺炎を合併する。疾患活動性のマーカーとしてフェリチンの有用性が知られていたが、近年、抗MDA5抗体価も疾患活動性を反映することが報告されている。

#### KEY WORDS

筋炎特異自己抗体／抗ARS抗体／抗Mi-2抗体／抗TIF1- $\gamma$ 抗体／抗MDA5抗体